

# 九州中学校総合体育大会審判報告書

報告者：千々岩 知佳

期日 令和元年8月4日～6日

場所 豊見城市体育館

那覇市民体育館

## 1 審判会議

### ・コーチ会議での確認事項

サインした人がコーチ→立って指揮を執れる人

タイムアウト→余裕を持って請求をするように。遅い場合は T.O に確認を取ってから

**処置ミスゼロ！！**クルーワークを大事に

3 or 2 →審判の判定が割れた時には T.O は 2 点カウントにしておく。ボールデッドの時に確認。

選手間違い→スコアシートを書き直す

インテグリティ→クリーンバスケット，クリーンザゲームの考え方

バスケットの価値を高める

デリバリー力・・・伝える力

**メカはベーシックに**

### ・コミッショナー会議での確認事項

試合前コーチにサインをもらう時に T.O 前にて両コーチ審判を含め，コミッショナーより確認事項あり

### ・その他，確認事項

T.O は生徒が行う。T.O 主任あり

タイマー・ショットクロック関係の音量，ブザーについては各会場入りして確認を

体育館内では ID カード掲示

トレーナーはビブス着用。

## 2 担当ゲーム 1 試合目

8月5日 女子1回戦 第2試合 与勝(沖縄) 対 今津(大分)

CC：岡井 元毅 U1 松浦 智光 U2 千々岩 知佳

～PGC～

- ・メカニクス，ガイドラインの確認
- ・IOT の確認
- ・EOQ, EOG
- ・それぞれの課題の共有
- ・クルーワーク(アイコンタクト，情報の共有)

～ゲームについて～



リバウンドからベースライン沿いでのルーズボール争い。Lが捉えてはいるが，Tが1・2歩ダウンしてロートレイルを心がけていれば，アウトオブバウンズになってもTは情報を持った状態でいれたらだろう。より正確な情報を持つために，ダウンすることも心がける。



T のエリアからミドルにドライブ。この後、ドライブした青(与勝)の選手がトラベリングになる。プライマリとしては、T がコールすべきであるが、トリプルホイッスルになってしまった。T の位置から綺麗に見えるので、セカンダリとしての意識をもつ。



青(今津)の選手が3Pを打った。その瞬間、制限区域内でリバウンドファール等ないか確認をする必要があるが、Cが高くリバウンド争いにきちんと目を当てることが出来なかった。白(与勝)の選手がボックスアウトの際に青の選手の下にもぐりこんでボックスアウトを行った。3POの生命線と言われるCからの判定が出来ず、Tが結果的にコールを行った。

～ゲーム後ミーティング(CC中心)～

ゲームの実態としては両チームともスローテンポであり、特に大きな何かがあったゲームではなかったが、だからこそ細かい所の確認や判定が必要であった。1試合通して、クレーン間でのアイコンタクトやコミュニケーションは良く図れていた。安心してゲームが進められる要因の一つであるため、クレーン間での協力は必要不可欠である。その良い土台から良い判定、処置ミスゼロに繋げていけるようにCCMをもっと究めていく必要がある。

### 担当ゲーム 2試合目

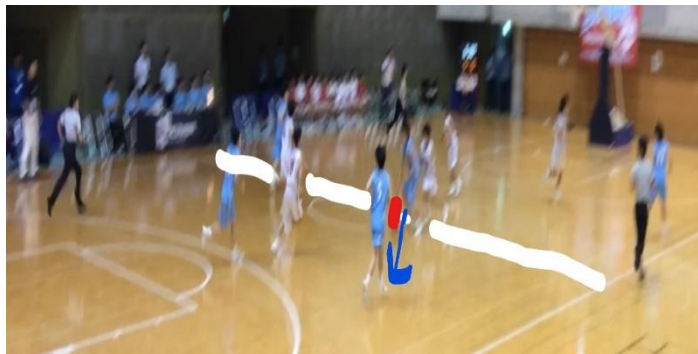
8月6日 女子準決勝 第1試合目 昭栄(佐賀) 対 二島(福岡)

CC: 仲間 芳幸 U1: 久原 裕未 U2: 千々岩 知佳

～PGC～

- ・メカニクス, ガイドラインの確認
- ・IOTの確認
- ・EOQ, EOG
- ・それぞれの課題の共有
- ・クレーンワーク(アイコンタクト, 情報の共有)

～ゲームについて～



NewTに入る際、センターラインの所で青(二島)の選手がコートをもたいた状態でバックコートにいる味方へパスを出した。Cが確認をしているにも関わらず、「あ！！」と思い、バックパスのコールをしてしまった。コールをした後にCがOKサインを出しているのに気が付いた。非常に際どいプレーではあったが、100%の確信を持って判定したわけではなかった。「あれ！？」という咄嗟の思いで判定をしてしまった。



バックコートスローインの際、コートから目を切った状態でNewCに入っている。何気ない時でもコートに目を当て、両ベンチを見る習慣を怠らないようにしたい。トラブルを未然に防ぐことにもつながる。



Lからクロスコール。白(昭栄)の選手の手が青(二島)選手の手に絡んでいた。CサイドであったがCからは見えにくいだろうと思い、開いた状態で様子を見ていたが手が絡んだままであった。自分の中ではレイトコールのつもりで明らかなファールであると確信して判定を行ったが、もう少し我慢が必要であった。(反省会より)いわゆるクロスコールになってしまうので、説得力を持たせるためには中の方へ入りこみ、吹くべきであった。



Tが全体的に高く、左右の動きが多いと指摘を受けた。映像で確認をすると、こういうケースになっていることが多く、ストレートラインになってしまっている。ボールレベルに合わせて上下の動きを意識したい。

### 3 全体を通して

鹿児島インターハイの直後であり、インターハイでの講義や試合の反省を踏まえて参加が出来た大会でありました。今大会でも「処置ミスゼロ、メカはベーシックに」がテーマでありましたが、まだまだクルーに甘えてしまう部分が多くありました。

2試合通して個人的に良かった点は、アイコンタクト・コミュニケーションを大事にできたところです。チームファールの数やフリースローシューターの確認、タイムアウトの数等確認しながらゲームを進めることが出来ました。自分のレフェリング力を上げるためにも自分が判定したもの、判定できなかったもの、それぞれのプライマリやアングルを再度確認する必要があります。ローテーションでは、余計なローテーションを入れてしまったのでパイプ内でのパス展開が多い時、もう少し様子を見ることやバックペダルをうまく使いわけていく必要があると思いました。

2試合目では、CCの仲間さんのCCMの強さを実感しました。多くの情報を頭に入れてコートに立つことが必要であり、まだまだ準備が足りないことを痛感しました。来年は鹿児島国体が開催されます。開催権の一員としての自覚を持ち、多くの場で研鑽を積み堂々とレフェリング出来るように努めていきたいです。

最後に開催権である沖縄県バスケットボール協会の皆様には大変お世話になりました。そして、今回の派遣にご配慮いただきました本県審判長をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様にお礼を申し上げ、本大会派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。